



No.825
2025.10.17

発行：男声合唱団 昂
レッスン会場：
大阪市中央区谷町7丁目1-39
谷町第2ビル308号 ねむかホール
連絡先：090-6058-5652(立川)

昂友の会 第5回うたごえ喫茶



10月5日(日)、昂友の会主催の第5回うたごえ喫茶がねむかホールで開かれました。

参加者は38名(内一般17名)+伴奏はギター世古さん、ピアノ森さんでした。司会は前半立川、後半向井さん。
昂は、合奏演奏曲の「どんと来い」「わが母のうた」の2曲を歌いました。

全国合唱発表会に向けて 坂井威文さん(指揮者)

4年間の雪辱を晴らすことができホッと胸を撫で下ろしています。

コロナや選曲などでなかなか日うたにコマを進められないこの4年間は、自分にとってもプレッシャーでした。

昂の良さを引き出せるのはなにか。

悩んだ結果、演奏会の企画として取り上げた荒木栄で勝負するという、ある意味では時代錯誤な「うたごえのど真ん中」で挑むことにしました。

逆にそれが今の時代には少なくなってしまったメッセージ性を強くアピールすることや、何年経っても変わらない政治問題や雑草精神の再確認につながったのではないかと思います。

11月の神戸でもがんばりましょう。

出演予定 (右チラシの催しです)

11/16(日) 天王寺九条の会20周年記念のつどい
大阪府教育会館「たかつガーデン」

13:30～出演(オープニング)20分間

衣装：赤シャツ、9条バッジ

集合時間、演奏曲等については後日お知らせします。
(10:30～運営委員会、14:30～定例レッスン)

10月～11月の活動予定(会議を除く)

- 10/17(金)17:30 定例レッスン
- 10/19(日)14:00 定例レッスン
- 11/2(日)14:00 昂友の会例会
- 11/4(火)15:00 T1.2パートレッスン
- 11/7(金)13:30 声楽中村教室
- ” 17:30 定例レッスン
- 11/11(火)13:30 声楽千秋教室 I
- ” 18:00 Br. Bsパートレッスン
- 11/16(日)13:30 天王寺9条の会20周年行事出演
- ” 14:30 定例レッスン
- 11/20(木)16:30 声楽千秋教室 II
- 11/21(金)17:30 定例レッスン
- 11/22(土)～24(祝) 日本のうたごえ祭典in神戸・ひょうご
- 11/22(土) 合唱発表会一般B、オリコン他
- 11/23(日) 合唱発表会一般A他、特別音楽会
- 11/24(祝) 大音楽会

中村聖保さん(声楽講師)

昂としては良い演奏だったと感じました。

一曲目。最初、合唱が走ってピアノ、指揮、歌がテンポずれに感じたのですが、そのあとは落ち着いてホッとしました。

言葉もよく聴こえ、柔らかさとしっかり感。全体のバランス感覚は良かったです。

音程も飯沼先生のお言葉お借りすると、許容範囲。結構安定していました。

あとは他団体との比較。審査員好み、コンクールですものね。もう少しパワーがあれば良いかなと思いつつ、丁寧な演奏、伝わってくる演奏、聴かせて頂き有難うございました。

2025.9.14(大阪合発当日)

天王寺九条の会20周年記念のつどい 戦後・被爆80年

核兵器も戦争もない世界へ

—希望の光としての核兵器禁止条約と日本国憲法—

11月16日(日) 13時30分～15時30分

- ◆場所： たかつガーデン 2階 コスモス (上本町6丁目)
- ◆お話し： 富田宏治さん(関西学院大学教授、原水爆禁止世界大会起草委員長)
- ◆うたごえ： 男性合唱団「昂」 ◆参加費： 無料 どなたでも参加歓迎です。



核兵器禁止条約が2017年に制定され、現在、参加国が、国連加盟国の多数派になったほか、被団協がノーベル平和賞を受賞するなど、核兵器廃絶の流れは大きなうねりとなっています。しかし、同時に、ロシア・アメリカ・イスラエルの核兵器による威嚇に見られるように、核戦争の危険性が切迫しているのが実状です。
今年は、天王寺九条の会が2005年に結成されて20年目の記念の年。私たちは、この機会に、核兵器禁止条約がもつ歴史的意義と、日本国憲法が核廃絶と核戦争阻止にはたすべき役割をしっかりと学ぶため、講演会を企画しました。みなさまのご参加をお待ちしております。

主催：天王寺九条の会(連絡先・森田 敏彦 080-8703-5292 ・大形美知子 090-1140-7192)



大阪の合唱発表会の感想や日本のうたごえ祭典に向けて意気込みを寄せていただきました。

T2 米田 剛

昴に入団して、たくさんの合唱曲を覚えられ大変幸せです。

今回は大阪の合唱発表会でみごとに推薦され大変うれしいです。日本のうたごえ祭典でまた歌える喜びを感じます。

神戸のさらに音響効果の優れたホールで合唱できると思い、ワクワクして顔がほほえみます。

荒木栄様は私が生まれた1963年より1年前に亡くなられ、今もお合唱を歌う人々に歌いつがれて、私も詞やメロディーがとても大好きで、今回合唱する「わが母のうた」「どんと来い」の歌の編曲もすばらしく、しっかり暗記して観客の皆様へ、心を込めて合唱団昴のハーモニーを届けるため、みなさんと共に歌いたいと思います。

T2 更家幸雄

2017年に昴に入って、3回目、4年ぶりの全国合発出場が叶いました。昨年コンサートに向けて練習してきた曲なので、思い入れも十分です。

ですが、私の生きてきた人生で、これほど強いシュプレヒコールを叫んだことはありませんでした。どちらかといえば、中小企業で生活の糧を得ていたもので、デモに参加したこともなかったし、いわゆる紛争などとは無縁で生きてきました。少々関わったことといえば、高校生活が東京都内の高校紛争で、学校がロックアウトされたり、卒業式が開かれなかったりした事位でしょうか。私はといえば、遠巻きに見ただけでした。

働き出してからも、労働運動などとは無縁の人生でした。だから、荒木栄も、団に入ってから知りました。遠い記憶の中に三井三池炭坑の粉じん爆発事故が、かすかにある程度。こんなに激しい活動をしていたことも、初めて知りました。

だけど、60余年後のこの日本でも、この叫びが、同じように繰り返さなければならないことは、実に残念です。

今年は、祭典は神戸で開かれますが、神戸は私の生まれた地、そこで思いっきり叫びたいと思います。

やったぜ 大阪合発推薦

Br 向井勝弘

今回は、千秋団長の「坂井先生を神戸に連れていく！！」を合言葉に、今迄になく気持ちの入ったレッスンが続いたように思います。

今年は例年以上に猛暑が続き、体調を崩された方、事情で退団された方がいましたが、半数近くが80歳以上のメンバーで、老体にムチ打ちながら「本番に強い昴」の勢いで、何とか4年ぶりの推薦を勝ち取ることが出来て、メンバーみなさんにアップレです。

また、パートレッスン、南部合発後のコメント等で丁寧な指導をしていただいている中村先生に感謝いたします。

全国大会では、人生の、また、合発活動の先輩として、心に残る気持ちを込めた演奏で感動を届けたいと思います。

うたごえ運動 雑感

Bs 丹下 務

合唱発表会、それもコンクール形式、推薦されれば次のステージがある。

「昴」に入団して4年目、やっと推薦された。これで神戸で歌える。これ、素直な気持ちで嬉しい。

でも、別な声も聞こえる。なんで今年は推薦されたのだろう。これまた素直な声「今年は旨く歌えたのだろう」別の声、「いや、コンクールだから、何か評価基準」があるのでは、一体それは何なのだろう。

私が、「日本のうたごえ」全国大会(?)に参加したのは、1963年。1955年～1965年の10年は、戦後社会の転換期だったと思います。それゆえ、資本と労働の対立は深まり、政治の世界に、経済界に、大変大きな闘争が発生しました。思い起こしてください。

日米安保条約改定闘争、ヴェトナム反戦闘争、三井三池闘争、教育界では勤務評定反対闘争、官公労とりわけ国鉄労働者に対しての国からの合理化に反対する闘争。このような、第2次世界大戦後に築き上げられてきた自由と平和、民主主義体制を弱体化しようとする動きが強化されてきました。(総資本対総労働の戦い)

うたごえ運動はこうした社会的背景の下、労働組合、民主的各種団体との連帯と友情を結び、平和と民主主義を守る運動の中で成長してきました。(歌声は平和の力)

さて、それから、60年過ぎた現在、うたごえ運動はその活動の中で多くの活動家、音楽専門家を輩出して来たのでは等と思っています。

コンクール形式の合唱発表会と銘打つ限りは、どのような合唱をもって良しとするのか、ある程度の客観的な評価基準があっても良いのではないのでしょうか。それは果たして何なのだろうかと、又考えさせられました。

Br 吉川勝彦

大阪合唱発表会、推薦おめでとうございます！突然の欠席迷惑かけました。

今年の昴は、昨年の昴とちがうぞ！と、3月昴コンサート、大阪母親大会、南部合唱発表会、と参加しているなかで、昴の合唱のこえでの成長を、私なりに感じていました。

坂井先生や技術部のメンバーが、荒木栄全曲チェックした上で、堂々と、コンサートや合唱発表会で、歌い上げたこと。

肩を張らず、しかし、荒木のあまり知られていない曲の意外な曲想を取り入れたなかで、男声の昴の歌う姿と声が、聞く人たちのこころを捕らえたのでは？真っ正面から、堂堂と、どんとこい、を歌う男の姿、そして雑草とわたしたち、太陽とわが母4つのキーワードで、レガートに、アグレッシブに、歌い上げる声と姿が、聞く人に届いた？

こんな闘う歌を持っている男声合唱団は、貴重な存在だと思います。

そんなことを思いながら、推薦されて、今までの昴の努力が、評価されたのだと思います。